

## 平成30年度八代市医師会事業報告

平成27年度八代市医師会臨時総会（平成28年3月31日開催）において、（1）規模及び建設予定地（准看護師課程併設の医師会館とし、敷地内に新築移転する）（2）建設時期（着工時期は、東京オリンピック後の2021年を目途とする）（3）資金計画（建設資金は、会館維持管理費・准看護師課程施設整備費・公的補助金・借入金を予定する）の3つの新しい八代市医師会館建設方針に基づき、八代市医師会館建設準備委員会を中心に種々の検討を予定していたところではあるが、近年の准看護師課程への入学者数の減少傾向に伴い、学生定員数の再検討など、今後の八代市医師会事業展開（看護学校運営等）での看護職者養成については、県下の看護師等養成所の動向も注視しつつ、慎重な議論を要する現状でもある。また、未だ建築費高騰の収束は見込まれない状況も踏まえ、着工時期の延期は不可避であるとの判断のもと、平成30年度八代市医師会臨時総会（平成31年3月29日開催）において、「一般社団法人 八代市医師会会館建設方針一部変更（案）」を議案上程し承認が得られた。これを踏まえ、（1）の規模及び建設予定地、並びに（3）の資金計画については従来通りとし、（2）の建設時期を延期して、改めて八代市医師会館建設準備委員会を中心に検討を重ねることとした。

次に地域包括ケアシステムの構築に併せ、これまで先生方から寄せられた八代市医師会立病院の在るべき姿への要望や将来展望について、「八代市医師会立病院在り方検討委員会」を立ち上げ、病床機能の見直しや検査機器、設備の充実などの検討を重ねた。

八代地域在宅医療南部サポートセンター（八代市医師会立病院地域医療連携室内）が平成30年4月1日より一部業務を開始した。業務に関する問題や課題はあるものの、まずは、無床診療所や有床診療所の先生方から急性期病院や中小病院への患者紹介など、主治医の先生方の指示をいただきながら、患者紹介等の負担軽減をサポートする業務を試験的に実施した。

また、病床機能の見直しについては、熊本県知事より指定を受けた地域在宅医療サポートセンター事業（熊本県補助金）を前述の八代地域在宅医療南部サポートセンター業務として実施した。これは、外来診療・往診・訪問診療を行っておられる先生方の患者で軽症の肺炎や慢性疾患の急性増悪（サブアキュート）など、急性期病院への入院を必要としない患者を中小病院や有床診療所での入院受け入れの確保と入院先を探す負担軽減を主な取り組みとして実施し、八代市医師会立病院においては、検査機器や施設の充実の検討を進めながら先生方の相談に応じて、当日、または翌日での入院が可能な体制づくりを行った。

平成30年度、八代市医師会の大きな流れは以上であるが、以下は各事業部門の主たる事業について報告する。

### 《医師会事務局》

1）公衆衛生向上及び社会福祉増進を図る事業（地域保健・学校保健・母体保護・産業保健・福祉医療） 2）医道の高揚・医学医術の発展普及を図る事業 3）会員相互扶助事業の業務がある。特に地域保健における第7次保健医療計画の推進、福祉医療における第7期介護保険事業計画の推進、学校保健での小中学校における学校医手当て等の予算折衝や学校医の配置など、関連の関係機関と緊密な連携を取りながら最新の情報収集、提供と迅速な対応に努めた。

### 《看護学校》

地域医療において、医療・保健・介護・福祉のそれぞれの分野で専門性を活かした看護師及び准看護師養成の重要性を踏まえ、看護師国家試験並びに准看護師検定試験では常に県内トップクラスの合格率を維持し、卒業生の県内就職定着率もAランク評価の調整率を得ている。

また、看護師2年課程・准看護師課程共に受験応募者が年々減少傾向にあり、担当理事を中心に検討が重ねられ、オープンスクールの開催などに取り組んだ。

### 《健診検査センター》

医師会共同利用施設として、地域・職域での各種健診やがん検診など多岐にわたる業務を担い、疾病の予防・早期発見に努め、早期治療のための勧奨を行い、また、八代地域唯一のラボとしての質の高い精度管理を基本に、緊急及び24時間対応の検体検査体制を整備し、健診業務並びに検査業務それぞれであらゆるニーズに迅速且つ的確に対応した。

### 《訪問看護ステーション》

地域包括ケアシステムの構築に向けた訪問看護ステーションの重要性と医療・介護・保健・福祉など、多職種のリーダー的存在としての体制整備を進め、医療の立場から、特に医療依存度の高いケースに重点的に対応した。

また、居宅介護支援事業所では、特定事業所加算取得に向け、人材の確保や他事業部門との連携強化などが検討された。

### 《医師会立病院》

医療療養病床（入院基本料I 100床）への病床転換を実施し、医療区分2または3の入院患者を3ヵ月平均で80%以上という厳しい基準を維持するために、限られた看護スタッフと地域医療連携室スタッフの連携で前年度に比べ、収益の増加などが堅調に見られる。スタッフのプロフェッショナルリティーに感謝しなければならない。

また、発達障害の疑いのある小児に対しての小児発達相談室は着実に関係者からの信頼を受けており、小児科医をはじめ、行政などの関係機関との連携、情報共有に努めた。

### 《夜間急患センター》

八代市の委託を受け、本会会員の尽力で地域住民の夜間急患センター利用が確実に定着している。特に小児医療については、小児科医会並びに内科協力医師による小児医療の充実は、八代市医師会活動の大きな柱の1つである。地域住民のニーズや感染症流行期など、あらゆる状況に応じた体制整備に努めた。